

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年二月度 入選句（投稿総数二千百五十五句・小中学投句数千四百四十五句）

特選

秒針が夜を追い抜く受験生 加茂郡川辺町石井 伸治(中三)

中学三年生の三学期。受験勉強も追い込みだろう。焦る気持ち湧いてくる。真夜中の部屋で、カチカチと響く秒針。何かに追われているような気持ちになる。休めていた手を、もう一度進める。ふと気付くと、空が白み始めていた。もうすぐ朝だ。時の経つ速さを「秒針が夜を追い抜く」と表現したところに、作者の感性の鋭さがあり、詩情がある。

暁を背にして走る霜の道 加茂郡川辺町松下 慶大(中二)

次第に空が明るくなり始めた。夜明けに走るのは、作者の毎日の習慣だろうか。つらくても、きつと目標があるのだろう。何かに一生懸命に取り組む姿は、尊い。エネルギーが感じられる俳句である。さらに、空の「群青」と太陽光の「黄金」、霜と息の「白」。そして、走る影。たった十七音に、色のイメージが次々と湧いてくる俳句である。

せつぶんにいってみたいおにがしま 大垣市 伊藤 蓮人(小二)

「鬼」というと、こわいイメージがありますが、節分の鬼なら大丈夫です。きつと、みんなが豆まきをして、鬼を退治したのでしょね。節分なら、鬼が何人もいても、豆まきをすることで、みんな逃げていきそうです。「おにがしま」に行きたいのは、桃太郎だけかと思いましたが、作者もかわいらしい「桃太郎」になれそうですね。

秀逸

白い息みんなで汽車になつてみる 加茂郡川辺町 吉田 知城(中二)

サンタクロース何時に来るか見張り番 加茂郡川辺町 村田 羽耶乃(中二)

クリスマスケーキを食べて太っちゃう 加茂郡川辺町 佐伯 綾生(中三)

冬休み休むひまなくペンを持つ 加茂郡川辺町 長尾 峻助(中三)

手袋の人差し指に穴一つ 加茂郡川辺町 佐合 凌騎(中三)

ざくざくと音をかなでる霜柱 加茂郡川辺町 神宮司 珠吏(中三)

もちを焼くふくらむ夢よどこへいく 加茂郡川辺町 遠藤 華(中三)

雪あそびしてるさいちゆうとけはじめ 大垣市 宮下 大和(小二)

春スキーコロコロコロところがった 大垣市 さきもと のりか(小二)

ふきのとうたいようさんにおこされた 大垣市 大はし かな(小二)

入選

真っ黒な空に漂う白い息 加茂郡川辺町 河村 真祐(中三)
 雪だるま溶けて笑顔が消えていく 加茂郡川辺町 水野 大一(中三)
 獅子舞に頭をかまれ泣く子ども 大垣市 中村 心俐(小六)
 春の風出会いと別れこうさずる 大垣市 藤井 美有(小六)
 はるのそらくもとおさんぼとりさんも 大垣市 いとうりょうすけ(小二)
 雪だるまころがしながら作ったよ 大垣市 おかだ りあ(小二)
 おひなさま一年ぶりにこんにちは 大垣市 ふくい のえ(小二)
 おいしそうつくえのうえのかがみもち 大垣市 やすだ ののか(小二)
 ママわらう小さくなつたセーターに 大垣市 伊藤 晟(小二)
 冬の朝いきをはいたら雲になる 大垣市 安どう 煌けん(小二)

入選

土筆取る大こう物のたまごとじ 大垣市 桐山 真維(小三)
 しゃぼん玉大きくしたらわれちゃった 大垣市 山岸 愛佳(小三)
 よーいドン風と競走風車 大垣市 小田切 亜実(小五)
 猫の恋ニひきの出会い屋根の上 大垣市 片岡 渉(小五)
 入学式先生たちとごあいさつ 大垣市 久野 宏太(小五)
 花びらをぎゅつとにぎって校門へ 大垣市 杉原 優月(小五)
 まめなげて力いっぱいおにたいじ 大垣市 川瀬 依織(小二)
 つきたてのもちにしようゆとのりをまく 大垣市 きくち ひかる(小二)
 ひもごまをまわせるようになりました 大垣市 山口 詩乃(小二)
 たんぼぼの黄色い色で元気です 大垣市 山ぎし みなほ(小二)

選者吟

梅の花写真の父は若きまま

恵理